

8

[信州大・医]

$0 < t < 3$ を満たす実数 t に対し、平面上の相異なる 4 点 O, A, B, C を次の条件(a), (b)を満たすようにとる。

(a) \overrightarrow{OA} と \overrightarrow{OB} のなす角を θ とするとき、 $\tan\theta = \frac{1}{t+1}$

(b) $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OC} = t-3$, $\overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OC} = 0$

線分 OA を $t:1$ に内分する点を D とし、 $\triangle OCD$ の面積を $S(t)$ とする。 $S(t)$ の最大値を求めよ。

9

[京都大・理]

α は $0 < \alpha \leq \frac{\pi}{2}$ を満たす定数とし、四角形 ABCD に関する次の 2 つの条件を考える。

(i) 四角形 ABCD は半径 1 の円に内接する。

(ii) $\angle ABC = \angle DAB = \alpha$

条件(i)と(ii)を満たす四角形のなかで、4 辺の長さの積 $k = AB \cdot BC \cdot CD \cdot DA$ が最大となるものについて、 k の値を求めよ。

10

[東北大・理]

三角形 ABC の内接円の半径を r , 外接円の半径を R とし, $h = \frac{r}{R}$ とする。また, $\angle A = 2\alpha$, $\angle B = 2\beta$, $\angle C = 2\gamma$ とおく。

- (1) $h = 4 \sin \alpha \sin \beta \sin \gamma$ となることを示せ。
- (2) 三角形 ABC が直角三角形のとき $h \leq \sqrt{2} - 1$ が成り立つことを示せ。また, 等号が成り立つのはどのような場合か。
- (3) 一般の三角形 ABC に対して $h \leq \frac{1}{2}$ が成り立つことを示せ。また, 等号が成り立つのはどのような場合か。

8

[信州大・医]

条件(a)から、 \overrightarrow{OA} と \overrightarrow{OB} のなす角 θ に対し、 $\tan \theta = \frac{1}{t+1}$ ……①

条件(b)から、 $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OC} = t-3$ ……②, $\overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OC} = 0$ ……③

ここで、 $0 < t < 3$ より、①から $\theta = \angle AOB$ は鋭角、②から $\angle AOC$ は鈍角となり、③より $\angle BOC$ は直角なので、

$$\angle AOC = \theta + \frac{\pi}{2}$$

すると、②より、 $OA \cdot OC \cdot \cos\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right) = t-3$

$$-OA \cdot OC \cdot \sin \theta = t-3, \quad OA \cdot OC = \frac{3-t}{\sin \theta} \dots\dots④$$

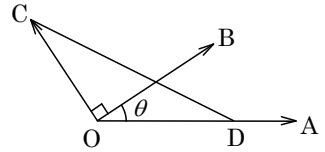
さて、線分 OA を $t:1$ に内分する点 D に対して、 $\triangle OCD$ の面積 $S(t)$ は、

$$S(t) = \frac{1}{2} OD \cdot OC \cdot \sin\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right) = \frac{1}{2} \cdot \frac{t}{t+1} OA \cdot OC \cdot \cos \theta$$

④を代入すると、 $S(t) = \frac{t}{2(t+1)} \cdot \frac{3-t}{\sin \theta} \cdot \cos \theta = \frac{t(3-t)}{2(t+1)} \cdot \frac{1}{\tan \theta}$ となり、①から、

$$S(t) = \frac{t(3-t)}{2(t+1)} \cdot (t+1) = -\frac{1}{2}t^2 + \frac{3}{2}t = -\frac{1}{2}\left(t - \frac{3}{2}\right)^2 + \frac{9}{8}$$

よって、 $S(t)$ は $t = \frac{3}{2}$ のとき最大値 $\frac{9}{8}$ をとる。



[解説]

ベクトルの内積が絡んだ形式をしていますが、内容は三角比の応用です。

9

[京都大・理]

半径 1 の円に内接する四角形 ABCD に対して、
 $\angle ABC = \angle DAB = \alpha$ ($0 < \alpha \leq \frac{\pi}{2}$) から、

$$\angle BCD = \angle ADC = \pi - \alpha$$

これより、四角形 ABCD は $AB \parallel DC$ の等脚台形である。

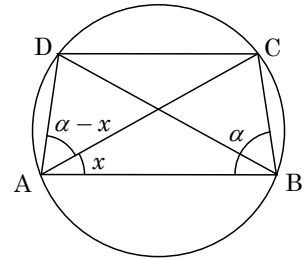
さて、 $\angle BAC = x$ ($0 < x < \alpha$) とおくと、 $\angle CAD = \alpha - x$ 、
 $\angle ACB = \pi - (\alpha + x)$ となり、正弦定理より、

$$\frac{BC}{\sin x} = 2 \cdot 1, \quad \frac{CD}{\sin(\alpha - x)} = 2 \cdot 1, \quad \frac{AB}{\sin(\alpha + x)} = 2 \cdot 1$$

すると、 $BC = 2\sin x$ 、 $CD = 2\sin(\alpha - x)$ 、 $AB = 2\sin(\alpha + x)$ となり、 $DA = BC$ から、4 辺の長さの積 $k = AB \cdot BC \cdot CD \cdot DA$ は、

$$\begin{aligned} k &= 16\sin^2 x \sin(\alpha + x) \sin(\alpha - x) = 8\sin^2 x (\cos 2x - \cos 2\alpha) \\ &= 8\sin^2 x (1 - 2\sin^2 x - 1 + 2\sin^2 \alpha) = -16\sin^4 x + 16\sin^2 \alpha \sin^2 x \\ &= -16\left(\sin^2 x - \frac{1}{2}\sin^2 \alpha\right)^2 + 4\sin^4 \alpha \end{aligned}$$

$0 < x < \alpha$ なので $0 < \sin x < \sin \alpha$ となり、 $\sin^2 x = \frac{1}{2}\sin^2 \alpha$ ($\sin x = \frac{1}{\sqrt{2}}\sin \alpha$) のとき、 k は最大値 $4\sin^4 \alpha$ をとる。



[解説]

円に内接する台形は等脚台形となりますが、これに正弦定理の適用させて 4 辺の長さを評価する問題です。

10

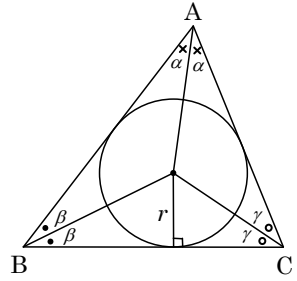
[東北大・理]

- (1) $\triangle ABC$ において、 $\angle A = 2\alpha$ 、 $\angle B = 2\beta$ 、 $\angle C = 2\gamma$ より、

$$\alpha + \beta + \gamma = \frac{\pi}{2} \dots\dots\dots ①$$

ここで、 $\triangle ABC$ の内接円の半径 r に対して、

$$\begin{aligned} BC &= \frac{r}{\tan \beta} + \frac{r}{\tan \gamma} = r \left(\frac{\cos \beta}{\sin \beta} + \frac{\cos \gamma}{\sin \gamma} \right) \\ &= r \cdot \frac{\cos \beta \sin \gamma + \sin \beta \cos \gamma}{\sin \beta \sin \gamma} = r \cdot \frac{\sin(\beta + \gamma)}{\sin \beta \sin \gamma} \end{aligned}$$



①より、 $\sin(\beta + \gamma) = \sin\left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right) = \cos \alpha$ となり、 $BC = r \cdot \frac{\cos \alpha}{\sin \beta \sin \gamma} \dots\dots\dots ②$

また、 $\triangle ABC$ の外接円の半径 R に対して、正弦定理から、

$$BC = 2R \sin 2\alpha = 4R \sin \alpha \cos \alpha \dots\dots\dots ③$$

②③から、 $r \cdot \frac{\cos \alpha}{\sin \beta \sin \gamma} = 4R \sin \alpha \cos \alpha$ となり、 $r = 4R \sin \alpha \sin \beta \sin \gamma$ より、

$$h = \frac{r}{R} = 4 \sin \alpha \sin \beta \sin \gamma \dots\dots\dots ④$$

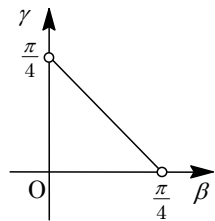
- (2) $\triangle ABC$ が直角三角形のとき、 $\angle A = \frac{\pi}{2}$ ($\alpha = \frac{\pi}{4}$) としても一般性を失わない。

このとき、①から $\beta + \gamma = \frac{\pi}{4}$ となり、④より、

$$\begin{aligned} h &= 4 \sin \frac{\pi}{4} \sin \beta \sin \gamma = 2\sqrt{2} \cdot \frac{1}{2} \{ \cos(\beta - \gamma) - \cos(\beta + \gamma) \} \\ &= \sqrt{2} \{ \cos(\beta - \gamma) - \cos \frac{\pi}{4} \} = \sqrt{2} \cos(\beta - \gamma) - 1 \end{aligned}$$

ここで、 $-\frac{\pi}{4} < \beta - \gamma < \frac{\pi}{4}$ なので、 $\frac{\sqrt{2}}{2} < \cos(\beta - \gamma) \leq 1$ から、

$$h \leq \sqrt{2} \cdot 1 - 1 = \sqrt{2} - 1$$



等号は $\cos(\beta - \gamma) = 1$ すなわち $\beta = \gamma$ のとき成立するので、このとき $\triangle ABC$ は直角二等辺三角形となる。

- (3) まず、 α を $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ で固定すると、①から $\beta + \gamma = \frac{\pi}{2} - \alpha$ となり、(2)と同様に、

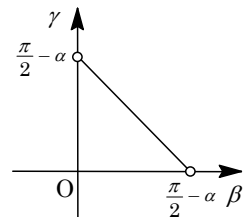
$$\begin{aligned} h &= 4 \sin \alpha \cdot \frac{1}{2} \{ \cos(\beta - \gamma) - \cos(\beta + \gamma) \} = 2 \sin \alpha \{ \cos(\beta - \gamma) - \cos\left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right) \} \\ &= 2 \sin \alpha \{ \cos(\beta - \gamma) - \sin \alpha \} \end{aligned}$$

ここで、 $-\left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right) < \beta - \gamma < \frac{\pi}{2} - \alpha$ なので、

$$\cos\left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right) < \cos(\beta - \gamma) \leq 1$$

すると、 $\sin \alpha < \cos(\beta - \gamma) \leq 1$ から、

$$h \leq 2 \sin \alpha (1 - \sin \alpha) = 2 \sin \alpha - 2 \sin^2 \alpha = -2 \left(\sin \alpha - \frac{1}{2} \right)^2 + \frac{1}{2} \dots\dots\dots ⑤$$



そこで、 α を $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ の範囲で動かすと、 $0 < \sin \alpha < 1$ から、

$$-2\left(\sin \alpha - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{2} \leq \frac{1}{2} \cdots \cdots \textcircled{6}$$

⑤⑥より、 $h \leq \frac{1}{2}$ となる。

そして、等号が成立するのは、 $\beta = \gamma$ かつ $\sin \alpha = \frac{1}{2}$ のときで、 $\alpha = \beta = \gamma = \frac{\pi}{6}$ から、 $\triangle ABC$ は正三角形となる。

[解説]

三角関数の三角形への応用問題です。(3)は1文字を固定して最大・最小を考える設問ですが、(2)を誘導としてとらえると、その方針は明快です。